



笠を置いたような形の宝満山の遠景（筑紫野市阿志岐より）

宝満山の歴史と価値

宝満山は福岡県太宰府市と筑紫野市にまたがる標高 829m の花崗岩からなる山で、かつては山頂付近から水煙が立ち上る姿から竈門山と呼ばれ、また、山の姿が笠を置いたような形から御笠山とも呼ばれました。歴史的には古代の九州を治めた大宰府と密接な関係をもって成立した信仰の山で、出土した遺物などの研究から、遣唐使が中国（唐）に渡る際の祈願や対外関係に係る祭祀が行われたとされています。

中世には修験の山として発展し、近世を通じて豊前の英彦山とならんで九州を代表する信仰の山として発展しました。山中には祭祀跡、堂舎（建物）跡、修行をおこなった窟、寺社に從事した人たちが生活をした坊跡など、古代から近世に至る遺構が良好に残っており、日本の山岳信仰のあり方を考えるうえで重要であることから国の史跡に指定されています。



西院谷地区の近世の坊にともなう石垣と石段



アクセス

宝満山山頂まで 竈門（かまど）神社から徒歩約 2 時間
竈門神社まで 西鉄太宰府駅からバスで約 10 分、徒歩約 40 分
西鉄太宰府駅まで 西鉄福岡天神駅より最速約 30 分
九州自動車道 太宰府インターから約 8km



国指定史跡 宝満山

指定日 平成 25 年（2013 年）10 月 17 日

所在地 太宰府市大字北谷字宝満山ほか

指定面積 644,341.56 m²（うち太宰府市内 253,300.26 m²）

備考 宝満山は、「日本遺産」の構成文化財の一つです



日本遺産

古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～

（くわしくは <http://www.dazaifu-japan-heritage.jp>）



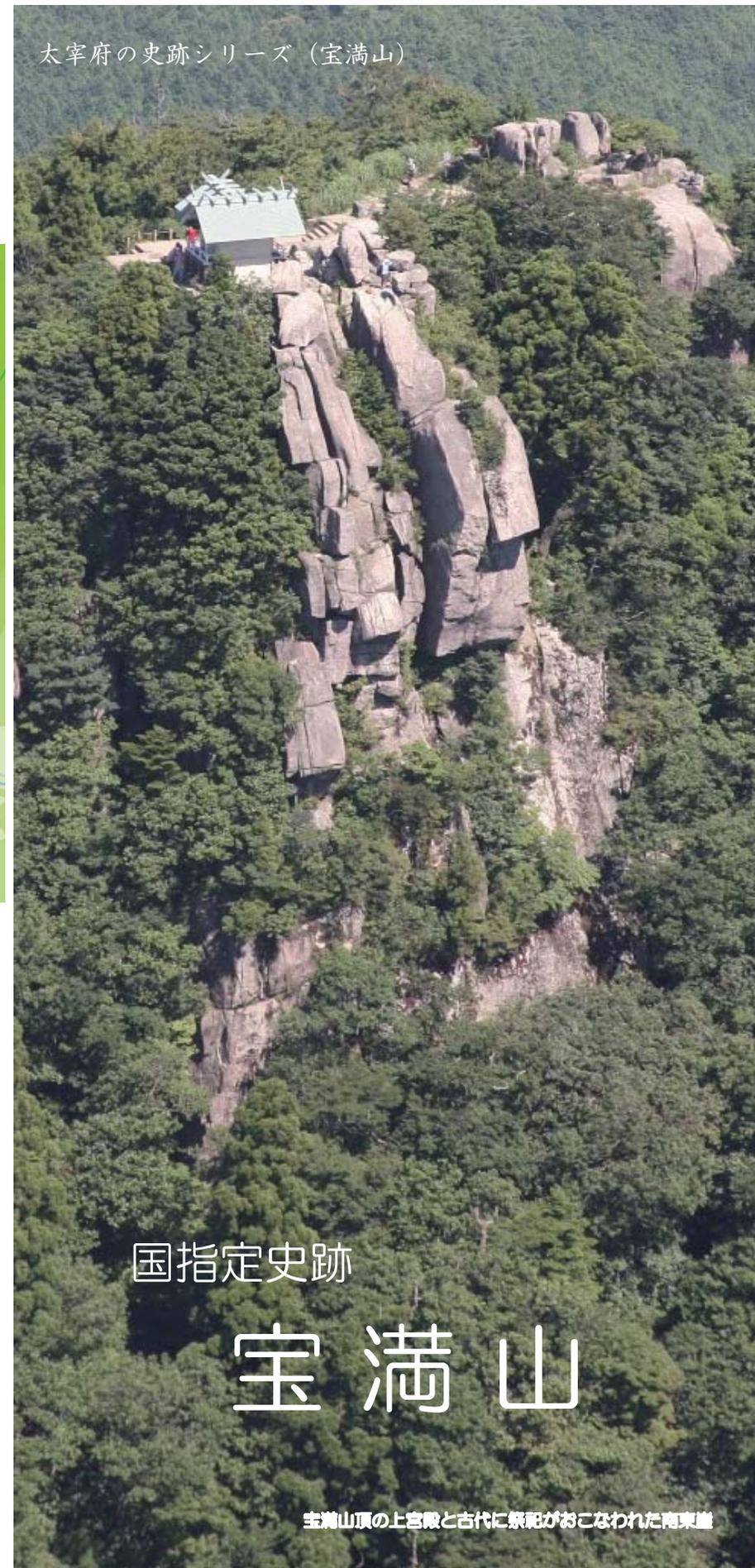
発行：太宰府市教育委員会（文化財課）

〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺 1-1-1

tel092-921-2121（代表） bunkazai@city.dazaifu.lg.jp

発行日：平成 28 年（2016 年）3 月 31 日

太宰府の史跡シリーズ（宝満山）



国指定史跡

宝満山

宝満山頂の上宮殿と古代に祭祀がおこなわれた南東崖



宝満山略年表

- 7世紀後半～ 山頂や山中において祭祀がおこなわれるようになる
- 803年 最澄（天台宗の開祖）が渡海祈願のため大宰府竈門山寺に薬師仏をつくる（扶桑略記）
- 804年 大宰府竈門神に従五位上を授く（続日本後紀）
- 847年 最澄の弟子円仁が大山寺において竈門大神のため経を転ず（入唐求法巡礼行記）
- 933年 天台僧の沙弥証覚が伝教大使の遺記により大宰府竈門山に宝塔を造立す（石清水文書之二）
- 1086年 内山寺僧安尊が宮崎に移居して没す（後拾遺往生伝上二）
- 1116年 博多津唐坊大山船三郎船頭坊が有智山明光房本観音玄義疏記等を写す（観音玄義疏記）
- 1169年 筑紫の霊験所に大山、四王寺が挙げられる（梁塵秘抄二）
- 1360年 龍造寺家経が有智山城に宿直警固す（龍造寺家文書）
- 1361年 懐良親王（後醍醐天皇の王子）が大宰府に征西府を置き、宝満山に要書をかまえる（太平記）
- 1569年 豊後大友家家臣戸次鑑連、吉弘鑑理らが高橋鑑種の宝満城を攻め落とす（豊前覚書）
- 1586年 薩摩の島津勢が宝満城を攻め高橋紹運破れ、宝満宮の宝物と古文書などを焼く（豊前覚書）
- 1618年 福岡藩主黒田長政が二十五石を寄進する（井本文書）
- 1648年 福岡藩主黒田忠之が社殿を造営する（竈門山旧記）
- 1665年 京都聖護院の末山となる（聖護院文書）
- 1870年 宝満山中で廃仏毀釈がおこなわれる（神仏分離資料）
- 1871年 上知令により宝満山の土地は国有となる（井本文書）
- 1872年 竈門神社が村社に列せられ祠掌1名が置かれる（竈門神社社記）
- 1895年 竈門神社が官弊小社となる（竈門神社社記）
- 1906年 国有地の一部が神社境内地となる（竈門神社社記）
- 1927年 竈門神社本殿遷座祭を執行する（竈門神社社記）
- 1961年 上宮、法城窟、下宮礎石において初の学術発掘調査が実施される
- 1982年 宝満山修験会が結成される
- 2013年 宝満山が国の史跡に指定される

※竈門山寺、大山寺、内山（有智山）寺は宝満山にあった寺院の名称です。

指定区域と遺跡

宝満山の史跡指定地は上宮地区、西院谷地区、愛嶽山頂地区、本谷地区、下宮地区、大門地区、東院谷地区（筑紫野市）があり、調査により礎石を持つ建物の跡や石垣や石段を持つ生活空間としての坊跡などが確認されています。

大門地区礎石建物（調査時）



本谷地区礎石建物（調査時）



古くは7世紀後半頃の遺物が出土し、古代から中世にかけて山中に多くの堂や社が建ち並び、それに従事する人々が住まい、山中は都市のようなにぎわいのある霊場となっていました。

本谷地区礎石建物 復原図



山中に残る祈りの場



下宮地区礎石建物（調査時）



中宮跡



宝満山頂下の益影の井



中宮跡の北にある梵字岩
文保2年（1318年）の年号があります

山頂に上宮の社があり、7合目には江戸時代までは大講堂があった中宮の跡や仏を示す梵字を刻んだ巨岩など、山中には霊山として人々が祈りをささげた場が残されています。

また、かつて「五井七窟」と呼ばれた聖水が湧き出す場所と修行や儀式をおこなった窟（石室のような小屋）が点在しています。「益影の井」では江戸時代には湧水になると雨乞いの儀式がおこなわれていました。

江戸時代までは山伏が山を守り、宝満二十五坊などと呼ばれていましたが、明治時代に仏教関係のものは廃され失われた文化財が多くある中で、梵字岩などいくつかの箇所で見ることができます。